



## 西野卓也 和歌山支部支部長

ツールド熊野は以前から知っていましたが観戦する機会が無かったです。

今回は和歌山支部の支部長・西野卓也選手にツールド熊野を観戦して頂きました。

ロード選手達が頑張っている姿に感動されていました。

# 競輪ってこんなことやってるんだ!!

和歌山支部は若手が育ってきましたね。今後の活躍が楽しみです。

——ツールド熊野に競輪の補助金が出ていた事はご存知でしたか？

「ツールド熊野に競輪の補助金が使われているのは、恥ずかしいですけど知らなかったですね。海外からチームが来るのも知らなかったです。ステイジレースで今は4日間ですけど、将来には1週間とか10日間とかになって欲しいですね。」

自転車競技の底辺拡大というか、レースもPR出来るでしょうし本当に良いと思います。

競輪場が日本には沢山あるのに、自転車競技がメジャーではないし、ロードレースだと一般道で見れるので、自転車競技の普及というか広まって行って欲しいですね。

僕らはファンがあつて、競輪場があつて開催があつてあつせんがあるから走れますけど、ロード選手は

色々な事情で、制約があつて、サーキットで走りなさいという場合が多いですけど、このような場が無いと走れませんからね。ヨーロッパみたいに小さい子がロードレースを見て憧れの選手がいて、そのようになろうと思うから強い選手が出てくるわけですし。だから走る場がとても大切だと思います」

——現在の和歌山支部の雰囲気を見せてください。

「和歌山支部は今、若い中で頑張る選手も出てきました。稲毛健太が日本自転車競技連盟の強化育成選手に選ばれて、本人もやる気満々でやっているんで楽しみは出来ました。」

また、自転車競技の普及の目的で、和歌山支部ではバイシクルチャレンジクラブというのを4月から始めまして、競輪場から離れている新宮市から来てくれる方もいて、

参加者の皆さんは結構楽しみにして来ていただいています。第一回目の時の参加者は17名で、第二回の際は25名も来ていただいて、自転車が足りない事態となつてしまいました。

バイシクルチャレンジカップに参加されている方は、競輪場ではめつたに乗れないから乗れる機会にという方が多いですね。また小学生の女の子とかも来ていただいています。ちっちゃい子が来ると、親御さんも競輪場に来ていただけるので、ついでに競輪を知っていただくという競輪の普及活動にも一役買っていると思っています」

——和歌山支部の目標はありますか？

「現在、和歌山支部は、37名と小規模ですが、みんな頑張っていますね。支部の目標は、和歌山支部の選手が特別競輪の決勝に乗れるようになることです。今は支部の一つの目標であった、特別競輪に常に出るといのは東口善朋が頑張ってくれたおかげで達成出来そうです。特別競輪に常時参加出来るようになってきたので、もう一歩進んで、次は決勝に乗ることですね。乗ってくれば本場に応援しに行けるので、早く応援に行けるようにして欲しいですね」